大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

PRESS RELEASE

大阪科学・大学記者クラブ　御中
（同時提供先：文部科学記者会、科学記者会）

2024 年 5 月 30 日
大阪公立大学

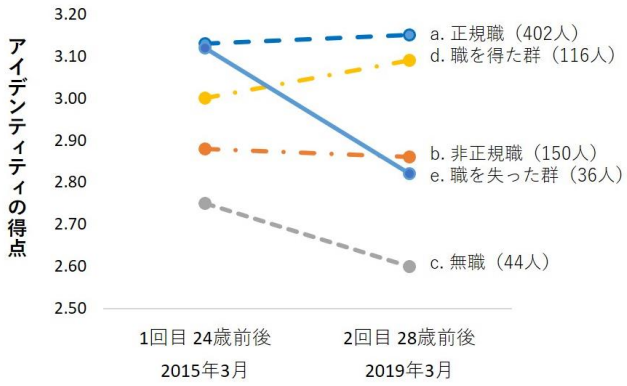
雇用形態の変化は自分らしさの確立に影響する！
20 代の雇用形態と心理発達の関係を追跡調査

＜ポイント＞
◇20 代後半では、職を得ることではなく、失うことがアイデンティティ確立に影響を及ぼす。
◇雇用形態にかかわらず、アイデンティティと人生満足感は関連している。

＜概要＞

アイデンティティは自分らしさの感覚のことで、心理的な健康と強い関わりがあります。12 歳から 24 歳前後の青年期に発達すると考えられており、特に、大学を卒業する頃の 20 代前半の成人にとって、正規職に就くことはアイデンティティの確立に重要な役割を果たすとされています。しかし、アイデンティティの発達は生涯にわたるプロセスであるため、青年期にとどまらず、その後の時期の心理的健康においても大変重要です。

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科の畑野 快准教授らの研究グループは、20 代後半のアイデンティティの発達をより理解するために、雇用形態とアイデンティティおよび人生満足感の関連について調査しました。日本人の成人男女 875 名（欠損値含む）を対象として、2015 年と 2019 年に追跡調査を実施。回答者を、正規職、非正規職、無職、職を得た群、職を失った群の 5 つのグループに分類し、グループごとのアイデンティティを得点化して比較しました。その結果、20 代後半では、職を得ることではなく、失うことがアイデンティティ確立に大きな影響を及ぼすこと、また、雇用形態に関係なく、アイデンティティと人生満足感の得点の高さには正の関連があることが分かりました。本結果は、臨床および産業心理の分野に重要な示唆を与えます。



本成果は、2024 年 5 月 15 日「Journal of Youth and Adolescence」にオンライン掲載されました。

アイデンティティは青年期の中心的な課題と考えられてきましたが、成人期においてもウェルビーイングを支える重要な要素であることが、本研究により初めて示すことができました。この知見を基に、成人の心理・社会的発達に関する理解がさらに深まることを期待しています。

畑野 快准教授

＜掲載誌情報＞
【発表雑誌】Journal of Youth and Adolescence
【論 文 名】Does Employment Status Matter for Emerging Adult Identity Development and Life Satisfaction? A Two-wave Longitudinal Study
【著　　者】Kai Hatano, Shogo Hihara, Manabu Tsuzuki, Reiko Nakama, Kazumi Sugimura
【掲載 URL】https://doi.org/10.1007/s10964-024-01992-x

＜研究の背景＞

アイデンティティは自分らしさを表し、その明確な感覚は人生の満足感につながっています。それに対して、自分らしさの混乱は、抑うつ気分の高まりと関連しています。このように、アイデンティティは心理的な健康に強く関わっています。これまで青年心理学者は、アイデンティティが 12 歳から 24 歳前後の青年期に発達すると考え、多くの研究を行ってきました。しかし、アイデンティティの発達は生涯にわたるプロセスであるため、青年期だけでなく、その後の時期の心理的健康においても重要です。特に、大学を卒業する頃の 20 代前半の成人にとって、正規職に就くことは、アイデンティティの確立に重要な役割を果たすと考えられています。しかし、20 代前半から後半にかけての年代の雇用形態と、アイデンティティ、人生満足感の関係はほとんど注目されていませんでした。

＜研究の内容＞

本研究では、20 代前半から後半においての（1）雇用形態とアイデンティティの関係性、（2）雇用形態の変化とアイデンティティ確立の連動性、（3）雇用形態によるアイデンティティと人生満足感の関係性、に着目しました。はじめに、日本人の成人男女 875 名（平均年齢 24.75 歳）を対象として、2015 年 3 月にオンライン調査を行いました。内容は、雇用形態やアイデンティティに関するもので、得点が高いほどアイデンティティが明確であることを意味します。続いて、2019 年 3 月に同じ対象者に対して、同じ内容の追跡調査を行いました。そして、回答者の雇用形態に基づき、a：正規職、b：非正規職、c：無職、d：職を得た群、e：職を失った群の 5 つのグループに分けました。（1）と（2）について多変量分散分析※1 を行い検討したところ、アイデンティティの得点は、グループ d では変化が見られませんでしたが、グループ e では低下しました。また、グループ b、d、e の成人は、雇用が安定していないために職を模索し、それに伴いアイデンティティを探求している可能性があること、職を得ることよりも失うことがアイデンティティの変化に大きな影響を与えることが分かりました。さらに、（3）について、アイデンティティと人生満足感の関連をグループごとにパス解析※2 を行った結果、雇用形態にかかわらず、アイデンティティと人生満足感の得点には正の関連があることが示されました。

＜期待される効果・今後の展開＞

本結果より、20 代前半から後半においての雇用形態と、アイデンティティ、人生満足感が複雑に関連していることが明らかになりました。これらは、心理的発達や職場のメンタルヘルス・ケアなどに重要な示唆を与えます。

今後は、正規職・非正規職という雇用形態の分類だけでなく、本人が希望した職なのかなどを踏まえた調査や、雇用形態の違う国での調査などを行うことで、20 代の雇用とアイデンティティ、人生満足感の関係がより精密に明らかになると考えています。

＜用語解説＞

※1　多変量分散分析：複数の従属変数に対する独立変数の効果を同時に検定する統計手法

※2　パス解析：因果関係を仮定した複数の変数間の直接および間接効果を定量的に評価する統計手法

【研究内容に関する問い合わせ先】
大阪公立大学大学院現代システム科学研究科
准教授：畑野 快（はたの かい）
TEL：072-254-9614
E-mail：kai.hatano@omu.ac.jp

【報道に関する問い合わせ先】
大阪公立大学 広報課
担当：谷
TEL：06-6605-3411
E-mail：koho-list@ml.omu.ac.jp